

## 基礎看護技術の教育方法と項目精選に関する研究

花 田 妙 子

### Teaching Methods of Basic Nursing Skills and Selection of the Items

Taeko HANADA

(Received May 24, 1993)

We investigated to find out the factors of technical nursing skills, which is essential to the basic nursing education, from available education systems of three-year nursing schools, providing the learners with technical skills.

The results were as follows :

- 1) Learning method managed by instructors (demonstration, using audio system, etc.) was 88.9%, and self-learning method was 11.9%.
- 2) The former was the most part of participating all learners or volunteering a few learners in the lecture, 30.5%, and the latter was almost learners' own learning, 79.4%.
- 3) The items of nursing skills containing all 5 kinds of learning methods consisted of 7 items (measuring blood pressure, bed bath, shampooing, washing their mouths, changing their sleeping wears, bedmaking, changing their physiques). In addition, more than 4 kinds of learning methods in technical skills was composed of 24 items.
- 4) The frequent item concerning cleaning and prevention of infection occupied 22.6% on the systematic category in technical feature.
- 5) The item of cleaning and prevention of infection showed the most frequent level among all five kinds of learning methods and was the most remarkable on the combination of all items.

Now, it has been emphasized that items of technical nursing skills on variable teaching methods is important in the basic nursing education. However, we should know that above items are not always equal to the basic factors of nursing education.

**Key words :** Nursing Skill, Teaching Method, Nursing Education, Self-learning Method

#### I はじめに

看護の基礎教育において、重要な部分を占める看護技術の教育方法および患者の個人差に対応できる応用力を育てるための基礎的・基本的項目の精選等についてはまだ十分検討されているとは言えない。基礎看護学における看護技術の中には、技能的な要素を含んだ多くの項目がある。病院における看護業務の中から限られた時間数の中で何をいかに効率よく学習させるかということは、看護教師を悩ます問題である。

吉田ら<sup>1)</sup>は看護において基本的に重要なものは何かという考えは、その項目の選び方において個人による大きなばらつきがあることを示している。基礎教育において教育されなければならない看護技術項目は、精選された基礎的、基本的項目とそれを応用展開できる創造性、可能性等の基礎的能力であってよいはずである。しかし、現状においては臨床実習で経験すると予想される多くの項目を網羅し、さらに卒業後の現場から、「あれもできない、これもできない」といった要

請等に影響され基礎教育としてあるべき理念の混乱も否定できない。このような状況をもたらしたものは、徒弟教育的看護婦養成の歴史と、現場の要求および急速に変化する現代社会や医療社会の影響は見逃せない。しかし、現在なお看護婦の養成は各種学校が多く、学校教育法に基づく正規の学校教育としての歴史が浅いこと等制度を含む教育全体の検討が不充分であることも否定できない。

Shona E. Butterfield<sup>2)</sup> は最大限の確実性と最小限の時間または労力あるいはその両者をもって、あらかじめ定められた結果に到達する能力が、看護技術においてきわめて大切であるとしている。看護の基礎教育においては、学生の発達段階と将来その技術を応用し展開させることのできる基礎的・基本的項目を精選し、学習させることが重要と考えられる。そこで、看護の短期大学における基礎教育の中で取り上げられている技能的項目とその方法等の実態を調査し、現状における基礎的、基本的項目の精選や効果的な学習のあり方等に関して、どのように認識されているかを観察し、今後の問題について検討した。

## II 対象と方法

### 1. 調査対象

3年制短期大学の全36校の看護技術担当教師を対象に、質問紙を郵送し、回答のあった20校の技術項目について検討した。

### 2. 調査期間

昭和58年1月～2月

### 3. 調査方法

調査内容は一般に授業として実施される基礎的項目と考えられている技術76項目をあげ、それ

表1 学習方法

	方法	内 容
教 師 関 与	A	教師の実演
	B	学生の実習（時間中） 1) 全員実習 2) 代表者実習
	C	患者体験※
	D	視聴覚教材による授業 1) VTR 使用 2) 16(8)ミリ使用 3) スライド使用
学 生 の 自 己 学 習	E	自己学習 1) 個人練習 2) VTR による学習 3) 16(8)ミリによる学習 4) スライドによる学習

※患者体験とは学生が交代で患者になって練習する。

以外の項目を実施している場合には調査用紙に追加記入してもらった。各看護技術項目の学習方法はA. 教師の実演, B. 学生の実習, C. 患者体験, D. 視聴覚教材, E. 自己学習の5項目につき複数回答で記入してもらい学習方法の組み合わせがわかるようにした。看護技術項目は追加記入を含めて83項目あり、これらをもとに検討した。

表2 教師関与と学生自己学習の比

	頻 度	%
教師関与	2304	88.9
自己学習	287	11.1
計	2591	100

III 結 果

1. 学習方法別頻度と看護技術項目

1) 教師関与と自己学習

まず具体的な看護技術項目について学習方法の頻度をみたのが表1と表2である。全体として学習の方法は大きく教師が関与しているものと自己学習に分けることができる。

83項目について使われている学習方法A, B, C, D, Eの頻度を合計すると延べ2591であった。この総数のうち教師が直接関与している学習は2304(88.9%)であり、それに比べ学生の自己学習は287(11.1%)と少ない(表2)。教師が関与している学習方法について、具体的にその頻度および割合をみたのが表3である。教師が関与している学習は、学生に実習させるという方法が最も多く704(30.5%)、次いで教師が実演してみせる方法が674(29.3%)であり、学生に患者体験をさせる実習は528(22.9%)、VTRなど視聴覚教材を使用する学習が398(17.3%)の順であった。

また、全体の11.1%とわずかであるが、学生の自己学習の内容をみたのが表4である。自己学習の方法は、学生が自分で練習する方法が228(79.4%)と最も多く、次にVTRを見て学習する方法が37(12.9%)とそれに続いていた。

2) 学習方法と看護技術項目

対象校の50%以上で実施されている技術項目数は、教師の実演は43項目、学生が全員あるいは一部の学生が実施する方法は29項目、患者体験27項目であった。対象校の30%以上で実施されている技術項目数は、VTRなど視聴覚教材による授業31項目、自己学習26項目であった。83の技術項目の学習方法として、各方法がどのように駆使されているかについて、特に4種類以上の各方法を用いて学習している項目を示したのが表5である。

表3 教師関与の学習方法別頻度

学 習 方 法	頻 度	%
学生の実習	704	30.5
教師の実演	674	29.3
患者体験	528	22.9
視聴覚教材による授業	398	17.3
計	2304	100

表4 自己学習の学習方法別頻度

学 習 方 法	頻 度	%
個人練習	228	79.4
VTRによる学習	37	12.9
16(8)ミリによる学習	14	4.9
スライドによる学習	8	2.8
計	287	100

表5 看護技術項目の多角的学習方法

学習方法組み合わせ	看 護 技 術 項 目
ABCDE	①血圧測定 ②全身清拭 ③洗髪 ④口腔の手入れ ⑤寝衣交換 ⑥ベッドメイキング ⑦体位変換
ABCD	①呼吸測定 ②体温測定(腋窩検温法) ③脈拍測定 ④便器の使用 ⑤シーツ交換 ⑥患者の移動 ⑦ストレッチャーによる移送
ABDE	①グリセリン洗腸 ②導尿 ③滅菌物の取り出し方(鍋子, ④カテーテル, ⑤トレイ) ⑥滅菌手袋の装着 ⑦ガウンテクニック
ABCE	①皮内注射 ②皮下注射 ③筋肉内注射

5種類の学習方法つまり A (教師の実演), B (学生の実習), C (患者体験), D (視聴覚教材による授業), E (自己学習) の各方法を使って学習している看護技術項目は, 血圧測定, 全身清拭, 洗髪, 口腔の手入れ, 寝衣交換, ベットメイキング, 体位変換の7項目であった。

ABCD の4種類の学習方法が使われているのは, 呼吸測定や体温測定, 脈拍測定, 便器の使用, シーツ交換, 患者の移動, ストレッチャーによる移送の7項目であった。ついで ABDE の組み合わせは, グリセリン浣腸, 導尿, 滅菌物の取り出し方の鑷子, カテーテル, トレイ, 滅菌手袋の装着, ガウンテクニックの7項目であった。ABCE の組み合わせは, 皮内注射, 皮下注射, 筋肉注射の注射に関する3項目であった。このように4あるいは5種類の学習方法を組み合わせて念入りに学習させている看護技術項目は, 全部で24項目で, このように多角的な学習方法を用いている項目は, 多くの教師が重要と考えている看護技術項目と思われる。

## 2. 看護技術項目の分類と学習方法

### 1) 技術の内容と頻度

技術項目を便宜上その内容の特徴に応じて11の項目に分類し, その学習頻度をみたのが表6である。最も高いのは清潔と感染予防に関する項目で全体の22.6%を占めていた。

次いで, 体温とその処置が13.8%であり, 測定に関する項目が11.5%, 運動・安静・移動に関する項目10.8%, 注射・採血, 呼吸とその処置, 排泄とその処置と続いていた。

### 2) 技術の内容と学習方法

次に A.B.C.D.E. の各学習方法において, 学習頻度の高い技術の内容を上位5位まで観察したのが表7である。すべての学習方法において, 清潔と感染予防に関する項目は第1位を占めていた。

表6 看護技術項目の分類別割合

看護技術項目の分類	%
1 清潔と感染予防に関する項目	22.6
2 体温とその処置	13.8
3 測定に関する項目	11.5
4 運動・安静・移動に関する項目	10.8
5 注射と採血	10.0
6 呼吸とその処置	9.4
7 排泄とその処置	9.2
8 与薬	2.7
9 剃毛・包帯	2.7
10 食事に関する項目	2.5
11 その他(穿刺等)	4.8

体温とその処置は, 学生が全員あるいは一部の学生が実施する方法(B)と患者体験(C)の両者において第2位を占め, 教師の実演(A)で第3位, 視聴覚教材(D)で第4位となっていた。

学生が全員あるいは一部の学生が実施する学習方法(B)と学生が交代で患者になって練習する学習方法(C)の両者は, 第1位清潔と感染予防, 次に体温と処置, 測定項目, 運動・安静・移動と第4位まで共通している。

視聴覚を利用する学習方法(D)は, 他の4種類の学習方法の上位に含まれている注射と採血, 体温と処置, 呼吸と処置以外に他の学

表7 看護技術項目の分類と学習方法

方法 順位	教師の実演	学生の実習	患者体験	視聴覚教材による授業	自己学習
1	清潔と感染予防	清潔と感染予防	清潔と感染予防	清潔と感染予防	清潔と感染予防
2	排泄と処置	体温と処置	体温と処置	注射と採血	排泄と処置
3	体温と処置	測定項目	測定項目	その他(穿刺等)	運動・安静・移動
4	注射と採血	運動・安静・移動	運動・安静・移動	体温と処置	測定項目
5	呼吸と処置	排泄と処置	注射と採血	呼吸と処置	呼吸と処置

習方法の上位にはない穿刺等のその他の技能の内容が第3位であった。

自己学習(E)の頻度が高い技術の内容は、どの学習方法においても頻度の最も高かった清潔と感染予防に関する項目が第1位で、排泄とその処置がEおよび教師の実演(A)においても第2位であった。第3位は、運動・安静・移動に関する項目で、この技術の内容は学生が全員あるいは一部の学生が実施する学習方法(B)および学生が交代で患者になって練習する学習方法(C)の両者共に第4位を占めていた。第4位の測定に関する項目も同様に学生の実演と患者体験の両者の学習方法において第3位を占めていた。第5位の呼吸とその処置は、教師の実演および視聴覚を利用する学習方法においても第5位を占めていた。

### 3) 看護技術項目の分類と多角的学習方法

技術の内容による分類と学習方法の組み合わせをみたのが表8である。教師の実演(A)、学生の実習(B)、患者体験(C)、視聴覚教材による授業(D)、自己学習(E)の5種類すべての学習方法が高い頻度で行われていたのは、清潔と感染予防に関する項目であった。次いで、ABCDの4種類の学習が高い頻度で行われていたのは、体温とその処置であった。

また、それぞれ3種類の学習方法の組み合わせで行われている技術の内容は、排泄とその処置、注射と採血、測定に関する項目、運動・安静・移動に関する項目、呼吸とその処置であった。これら5つの技術の内容について自己学習(E)は、排泄とその処置、測定に関する項目、運動・安静・移動に関する項目、呼吸とその処置のどれにも用いられているが、注射と採血においては含まれていなかった。教師の実演は、排泄とその処置、注射と採血、呼吸とその処置のどれにも用いら

表8 看護技術項目の分類と多角的学習方法

看護技術項目の分類	学習方法組み合わせ
清潔と感染予防に関する項目	ABCDE
体温とその処置	ABCD
排泄とその処置	ABE
注射と採血	ACD
測定に関する項目 運動・安静・移動に関する項目	BCE
呼吸とその処置	ADE

れていた。清潔と感染予防に関する項目、体温とその処置、排泄とその処置、注射と採血、呼吸とその処置、測定に関する項目、運動・安静・移動に関する項目は、表6において看護技術項目の分類による学習頻度の高い順に11位まであげた技術の内容と7位まで重なっており、重要視し多角的な教育方法を用いて綿密な学習が行われていることがうかがえる。

## IV 考 察

看護の基礎教育において看護技術の中でも技能的項目は、学生の実習場でありまた卒業後の就職先でもある病院からの要請と、対象が病気をもった患者であることから現場で経験すると予想される多くの項目を、限られた基礎教育の中で学習させようとするため、詰め込み教育でゆとりのないカリキュラムになりやすい。また基礎教育において基礎的、基本的に重要な項目の精選と教育方法等に対する検討も不十分であると考えられることから看護の短期大学における実態を調査した。

その結果、いろいろな学習方法を組み合わせて念入りに学習させている看護技術項目は、多くの教師が重要と考えていることがうかがえた。特に5種類の学習方法、教師の実演、全員または

一部の学生の実習、学生が交代で患者になって練習する患者体験、VTR等を使用する視聴覚教材による授業、個人で練習したりVTR等により自己学習を重ねて習得している7項目は、基本的な看護技術項目と考えられる。7項目中の全身清拭、洗髪、口腔の手入れ、寝衣交換、ベットメイキング、体位変換は、患者ケアにおける最も基本的ケア技術に必要とされる看護技術項目であることがわかる。もう一項目の血圧測定は、4種類の学習方法、教師の実演、学生の実習、患者体験、視聴覚教材による授業により学習させている呼吸測定、体温測定、脈拍測定と合わせて患者の状態を観察できるための基本的な技術項目としておさえていることがうかがえる。以上の多角的学習方法により教授されていた看護技術項目のそれぞれについて、桑野ら<sup>3)</sup>が明らかにした看護技術教育の到達度と教育方法と照らしてみるとどれも高い到達度であることが推測される。

また、看護技術項目の分類と使用されている学習方法の頻度においても、患者ケアに必要な清潔と感染予防に関する項目が最も高く、患者の状態観察に必要な体温とその処置、測定に関する項目が上位を占めていることとも一致する。すなわち、患者ケアにおける最も基本的ケア技術および患者の状態を確実に観察するために必要な技術の修得を重視していることがわかる。

処置技術に関して注射は、皮内注射、皮下注射、筋肉注射共に教師の実演、学生の実習、患者体験、自己学習の学習方法がとられている。また、グリセリン浣腸、導尿については、学生の実演、学生の実習、視聴覚教材による授業、自己学習の学習方法が組み合わされている。桑野ら<sup>4)</sup>の到達度の学習体験レベルでみると中程度の到達度であり、吉永ら<sup>5)</sup>の教育評価においても、ほぼ同程度の到達度が示されており、高い到達度は容易ではない問題を含んでいることが推測される。

次に、学生が自分の技術の到達度を高めるために自主的に学習する自己学習の割合は全体の約1割位がとられていることがわかる。そして、その学習方法は多くは学生各自が練習する個人練習で約8割を占めている。自己学習の頻度が高い看護技術項目の分類による技術の内容は、他の学習方法においても上位を占めていることから念入りに学習させており、しかも個人や学生相互で自己学習のしやすい項目であることがわかる。自己学習を助ける教材としてはVTRが最も多く用いられている。またVTRの内容は毎年わかりやすい内容のものが製作されてきているので、より有効に活用できるようになっている。

教師はVTRなど視聴覚教材を用いて授業し、デモンストレーションを行い、それを見て学生が実際に行ってみたり、患者体験もするという教師が関与する学習方法全てにおいて最も高い割合を示しているのは、患者ケアの基本的な看護技術項目を含む清潔と感染予防であり、やはり教師が重視し学習方法を組み合わせて到達度の高い修得を期待していることがわかる。体温と処置、測定項目も上位を占め、確実に患者の状態を観察できる基本技術を重要と考え教育していることがわかる。注射と採血においては授業に視聴覚教材が用いられている割合の高いことがわかる。

VTRを見たり自分で練習する自己学習で技術の到達度を高めているのは、患者ケアに必要な清潔と感染予防に関する項目、排泄とその処置、運動・安静・移動に関する項目であることがわかる。自己学習を有効にするためには、物理的条件もぬきにできず、VTRの教材の設備、学生が練習できるための実習室およびシュミレーション設備、練習時間などを整えることが大切である。

## V ま と め

基礎看護学の看護技術項目を、行われている学習方法から分析・検討し、次のような結果を得

た。

- 1) 教師が関与する学習方法と学生の自己学習の割合は、88.9%と11.1%であった。
- 2) 教師が関与する学習方法においては、全員あるいは一部の学生が実施する方法が最も多く30.5%、自己学習は自分で練習する方法が79.4%で最も多かった。
- 3) 5種類の学習方法全てに入っていた看護技術項目は、血圧測定、全身清拭、洗髪、口腔の手入れ、寝衣交換、ベットメイキング、体位変換の7項目であり、4種類以上の学習方法で学習させている看護技術項目は全部で24項目であった。
- 4) 技能的特徴による看護技術項目の分類においては、清潔と感染予防に関する項目が最も学習頻度の割合が高く22.6%を占めていた。
- 5) 5種類全ての学習方法において、清潔と感染予防に関する項目は第1位を占めており、学習方法の組み合わせにおいても全ての学習方法が高い頻度で行われていた。

多角的な学習指導の方法を活用して、綿密に教育が行われている看護技術項目は、重要視されていると考えられる。しかし、それらの項目がそのまま基礎的基本的項目として看護の基礎となり得るのかについては、さらに詳細な検討が必要である。

稿を終えるに望み、御指導を賜りました前熊本大学教育学部教授の木場富喜先生に深謝いたします。御協力くださいました短期大学の基礎看護技術担当の先生方に厚く御礼申し上げます。

#### 引用・参考文献

- 1) 吉田時子, 吉武香代子, 看護の基礎教育修了時における看護技術の到達度に関する研究, ナースステーション, VOL. 5(4), 68-77, 1975.
- 2) ショーナ E. バターフィールド, 実習室実習の重要性, INR, VOL. 6(4), 10-17, 1983.
- 3) 桑野タイ子, 小野沢康子, 他, 看護技術教育の到達度と教育方法, 第16回日本看護学会看護教育集録, 129-132, 日本看護協会出版会, 1985.
- 4) 同上.
- 5) 吉永喜久恵, 阿曾洋子, 他, 卒業時における看護技術の修得状況からみた技術教育の検討, 第18回日本看護学会看護教育集録, 183-186, 日本看護協会出版会, 1987.
- 6) 小野沢康子, 桑野タイ子, 他, 成人系看護技術教育の到達度と教育方法, 第16回日本看護学会看護教育集録, 38-41, 日本看護協会出版会, 1985.
- 7) 早坂一子, 高橋とし子, 他, 看護の基礎教育修了時における看護技術の到達度に関する実態調査, 第16回日本看護学会看護教育集録, 41-44, 日本看護協会出版会, 1985.
- 8) 大久保富子, 宮崎和子, 他, 基礎看護技術の実施ポイントに関する検討, 第16回日本看護学会看護教育集録, 44-47, 日本看護協会出版会, 1985.
- 9) 高橋明美, 秋元美智子, 他, 基礎技術強化による学生の臨床実習への対応の変化, 第18回日本看護学会看護教育集録, 169-171, 日本看護協会出版会, 1987.
- 10) 川崎佳代子, 桑野タイ子, 他, 看護技術教育の到達度と教育方法, 第18回日本看護学会看護教育集録, 176-179, 日本看護協会出版会, 1987.
- 11) 片岡万里, 浜田弘子, 他, 学内看護技術教育への一考察, 第18回日本看護学会看護教育集録, 187-189, 日本看護協会出版会, 1987.
- 12) 渋谷優子, 棚原節子, 他, 看護基礎技術の「食事の観察と援助」における演習方法, 第19回日本看護学会看護教育集録, 173-175, 日本看護協会出版会, 1988.
- 13) 平井真由美, 下山田恵子, 他, 行動形成過程の分析による技術教育の一考察, 第19回日本看護学会看護教育集録, 176-178, 日本看護協会出版会, 1988.

- 14) 森山悦子, 小澤ミヨ子, 看護技術における知識と技術の統合化(2), 第 19 回日本看護学会看護教育集録, 183-185, 日本看護協会出版会, 1988.
- 15) 岡崎寿美子, 永井敏枝, 看護技術授業の演習にモデルを使用しての評価, 第 21 回日本看護学会看護教育集録, 304-308, 日本看護協会出版会, 1990.
- 16) 花岡真佐子, 菅原スミ, 他, 学生のレディネス・学習段階にそった授業展開, 第 21 回日本看護学会看護教育集録, 308-311, 日本看護協会出版会, 1990.
- 17) 奥宮暁子, 桑野タイ子, 他, 看護基礎教育において必要とされる基礎技術項目の検討, 第 20 回日本看護学会看護教育集録, 15-17, 日本看護協会出版会, 1989.
- 18) 平岡恵子, 兼安久恵, 他, 臨床実習における基礎看護技術の認定項目に関する検討, 第 20 回日本看護学会看護教育集録, 18-21, 日本看護協会出版会, 1989.
- 19) Patricia A. Potter, Anne G. Perry, Fundamentals of Nursing, Mosby-Year Book, 1993.